

夏の星空

【児童センター春の星空6月号】

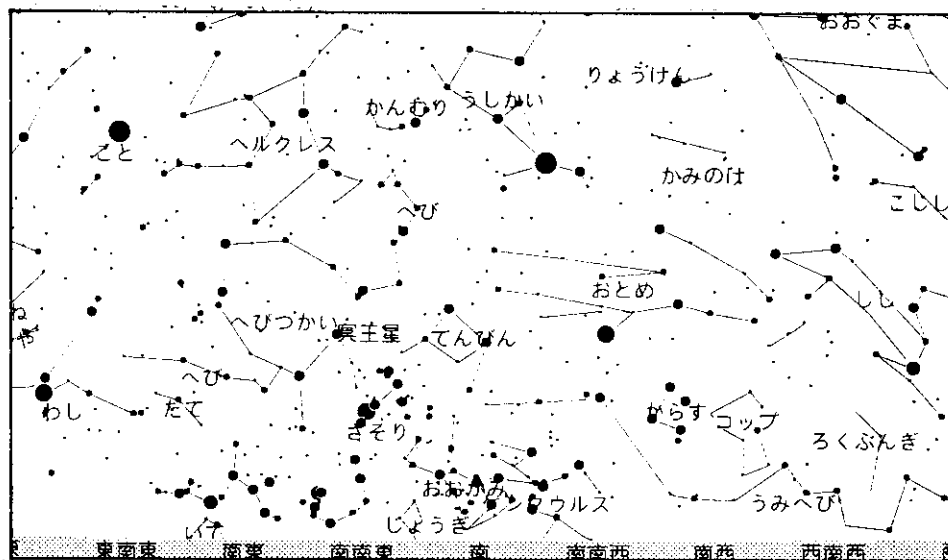
6月の星座を見つけるには、おおぐま座にある北斗七星（ひしゃくの形をした星の列です）から始めましょう。夕方の真上のそらに、北斗7星の柄の部分から南に延びる「春の大曲線」から春の星座を探します。北斗七星からの曲線に沿って、南方向に目を移すと頭上にオレンジ色に輝く星があります。これは、うしかい座の“アルクトゥルス”です。この星は麦星とも呼ばれ、南の高い空の明るい星は“アルクトゥルス”しかありませんからすぐわかるでしょう。

さらに、春の大曲線を南に延ばすとおとめ座の“スピカ”にたどり着きます。この“スピカ”は白色をしていることから日本のある地方では、「真珠星」とも呼ばれています。晴れた夜空には、これら「春の大曲線」から星座探しをしてみてください。

< 6月の星空カレンダー >

- 2日（金）●新月
- 9日（金）○上弦
- 17日（土）○満月
- 21日（水）夏至
- 25日（日）●下弦

右の星図は、6月中旬夜9時ごろ、南の方向を中心に見た星空です。



☆☆☆☆☆☆

《天文現象》

☆ 6月21日（水）は、1年中でもっとも昼の時間が長い「夏至」になります。

星を見るには、夜空が暗くなくては見えませんから夜の時間が一年でもっとも短くなる6月は「梅雨」の時期でもあり、天文ファンにとっては残念な季節と言えます。

☆ 水星が夕方の西北西の低い位置に見えます。日没直後の西の空に、ふたご座の中にあります。6月4日（日）には非常に細い月があり、その右側に水星があるので、月が水星を見つける目安となります。児童センター天文台の望遠鏡でもお見せします。